

競技・施設課の主な事業の取組
状況と今後の取組について

目 次

総合型地域スポーツクラブの登録・認証制度について・・・・・・・・・・ 1

あいちトップアスリート発掘・育成・強化事業の実績等について・・・・・・・・ 3

国民体育大会愛知県選手団の成績について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

障害者スポーツ事業について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

愛知県新体育館（愛知国際アリーナ）について・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

総合型地域スポーツクラブ登録・認証制度について

1 登録・認証制度

総合型地域スポーツクラブ（以下「総合型クラブ」という）が、より公共性の高い「社会的な仕組み」として、永続的に充実した活動を行えるよう、第2期スポーツ基本計画に基づき、日本スポーツ協会と都道府県体育・スポーツ協会が関係団体と連携して整備し、2022年4月1日より運用が開始された。

本県においては、2020年度に総合型クラブの育成支援体制の一元化、2021年度に登録・認証制度の愛知県版諸規定の制定、各総合型クラブに対する登録・認証制度及び手続に関する説明を実施し、準備を進めてきた。

2 本県における取組状況

○ 制度の運用

2022年度	4月1日	登録・認証制度の運用開始 各総合型クラブから申請書類の提出
	5月29日	愛知県総合型クラブ連絡協議会設立総会及び第1回常任幹事会開催
	7月19日	愛知県登録審査委員会における審査終了
	9月1日	愛知県総合型クラブ連絡協議会から総合型クラブ全国協議会に対し、登録認定リストを提出 (全国協議会において登録)
	11月1日	登録開始（有効期間は1年間）
	2月27日	県連絡協議会第2回常任幹事会開催

○ 愛知県総合型クラブ連絡協議会

職名	所属	役職	氏名
幹事長	NPO 法人生き生きかにえスポーツクラブ	理事長	杉浦 亨
副幹事長	SKITS クラブ	事務局長	鈴木 三和子
常任幹事	NPO 法人名古屋スポーツクラブ	正会員	田中 俊行
常任幹事	水野・西陵いきいきクラブ	会長	鵜飼 弘富
常任幹事	朝日総合スポーツクラブ	事務局長	山口 博子
常任幹事	東海学園大学	講師	井澤 悠樹
常任幹事	愛知県スポーツ局競技・施設課	主査	佐野 豪哉

○ 愛知県総合型クラブ登録審査委員会

職名	所属	役職	氏名
委員長	公益財団法人愛知県スポーツ協会	常務理事	藤嶋 典弘
委員	NPO 法人生き生きかにえスポーツクラブ	理事長	杉浦 亨
委員	名古屋柳城女子大学	教授	小野 隆
委員	愛知県スポーツ局競技・施設課	主査	佐野 豪哉

3 本県における登録状況（2022年11月1日現在）

愛知県総合型クラブ連絡協議会の加入クラブには、会員クラブ（定められた登録基準を満たし、全国協議会に登録）、準会員クラブ（将来的に全国協議会への登録を目指す）があり、合わせて87クラブが加入している。

- 登録クラブ・・・21クラブ
- 登録準備クラブ・・・66クラブ

（参考）本県における総合型クラブの育成状況（2022年7月1日現在）

創設済み市町村 52市町村（96.3%） 134クラブ
創設準備段階の市町村 1市
未育成市町村 1町

4 今後の取組

2023年度より、地域スポーツ活性化事業費補助金を新設

○ 目的

地域のスポーツ活動の拠点であり、運動部活動の地域移行の受け皿の一つとしても期待される総合型クラブの運営体制構築や指導者確保に向けた取組を通して、地域スポーツの活性化を図る。

○ 補助対象

公益財団法人愛知県スポーツ協会

○ 対象事業

・ 運営体制構築

登録・認証制度の登録認定を目指すクラブに対して、運営実務（参加者募集、情報発信、関係者との連携など）をサポートするコーディネーターを派遣

・ 指導者確保

スポーツ教室等の充実に取り組むクラブに対して、県内の競技団体の指導者や、スポーツ医・科学人材（アスレティックトレーナーなど）を派遣

（参考）競技団体指導者やスポーツ医・科学人材を活用したスポーツ教室等の例

未就学児・小学生	アスレティックトレーナー等による身体的準備指導
中学生・高校生	県競技団体の指導者等によるハイレベルな指導や競技体験教室
高齢者	アスレティックトレーナー等によるコンディショニング指導
全世代	県パラ競技団体の指導者等による障害者スポーツ体験・交流会

あいちトップアスリート発掘・育成・強化事業の実績等について

1 あいちトップアスリートアカデミー事業

(1) 1期生(2019年度)の主な実績

＜2020年度成績＞

- ・ジュニアのライフル射撃を体験したアカデミー生11名が、中央競技団体の指導を受ける育成プログラムの受講生に選ばれ、うち2名が小中学生の全国大会に出場し、ビームピストルで5位、エアライフルで7位に入賞した。

＜2021年度成績＞

- ・アーチェリーに転向したユース修了生1名が、県高等学校新人体育大会で2位に入賞し、全国大会出場を決めた。
- ・ラグビー女子に転向したユース修了生1名が、県代表として大会に出場した。

＜2022年度成績＞

- ・ライフル射撃に転向したジュニア修了生1名が、国民体育大会東海ブロック大会で3位に入賞し、栃木国体へ出場した。
- ・アーチェリーに転向したユース修了生2名が県高校総体で入賞し、東海大会への出場を決めた。うち1名はインターハイに出場し、5位に入賞した。

(2) 2期生(2020年度・ユースのみ)の主な実績

＜2021年度成績＞

- ・ビーチバレーボールに転向したアカデミー生2名が、県ジュニア男子選手権大会で優勝し、全国大会出場を決めた。また、第76回国民体育大会ビーチバレーボール競技愛知県予選会兼第6回東海ビーチバレーボール選手権大会愛知県予選会でも優勝し、三重国体及び東海選手権大会への出場を決めた。
- ・ラグビー女子に転向したユースのアカデミー生1名が、県代表として大会に出場した。

(3) 4期生(2022年度)の活動状況

ア 選考会

(ア) キッズ・ジュニア

2022年4月下旬から5月中旬に岡崎中央総合公園体育館等で3回実施

(イ) ユース

2022年5月29日(日)に中京大学豊田キャンパスで実施

※ 2022年4月～5月に各競技1～2日程度競技体験会を実施

(ウ) パラアスリート部門

2022年5月29日(日)に名古屋市障害者スポーツセンターで実施

イ 合格発表

2022年7月7日(木)

コース・部門	キッズ		ジュニア			ユース	パラ	合計
	小4	小5	小6	中1	中2	中学生以上	小4以上	
応募者数	323名	241名	259名	152名	67名	29名	56名	1,127名
	564名		478名					
合格者数	19名	20名	20名	18名	18名	13名	9名	117名
	39名		56名					

ウ 開講式

2022年7月18日(月・祝) ウィルあいち

エ 活動期間

2022年7月18日(月・祝)から2023年3月18日(土)まで

オ 活動内容

(ア) キッズ

競技体験プログラム 17 回（9 種目）、スポーツ教養プログラム 9 回実施

(イ) ジュニア

競技体験プログラム 16 回（13 種目）、スポーツ教養プログラム 9 回実施

(ウ) ユース

競技団体の計画により、週 1～3 回程度実施、スポーツ教養プログラム 9 回実施

(エ) パラアスリート部門

競技団体の計画により、週 1～3 回程度実施、スポーツ教養プログラム 4 回実施

カ 修了式

2023 年 3 月 18 日（土）名古屋国際会議場

2 2026 年アジア競技大会等選手強化事業

(1) 強化指定選手の競技力強化事業

強化指定選手に対し、合宿・大会等への参加費や競技用具の購入等を補助

	指定期間	強化指定選手数	強化費交付額
オリンピック・アジア競技大会強化指定選手	1 年間	148 名	上限 30 万円
パラリンピック・アジアパラ競技大会強化指定選手		34 名	上限 50 万円

(2) 北京冬季オリンピック・パラリンピック出場した愛知県ゆかりの選手等

オリンピック 9 名、パラリンピック 2 名 計 11 名

（銅メダリスト 4 名、入賞者 6 名）

(3) アスナビ説明会

- 「アスナビ」は、現役トップアスリートと企業をマッチングするための（公財）日本オリンピック委員会（JOC）の就職支援制度。「アスナビ説明会」は、JOC が主催し、安心して競技に取り組める環境を望むトップアスリートと、彼らを採用し応援することで、社内に新たな活力が生まれることなどを期待する企業との間に、Win-Win の関係を築いていくことを目的としている。

○ 開催概要

日 時：2022 年 6 月 7 日（火）午後 4 時から午後 6 時 30 分まで

共 催：愛知県、中部経済同友会

参加者：JOC 関係者、中部経済同友会会員等（22 社 28 名）、

愛知県スポーツ局関係者

登壇アスリート：5 名

就職内定者：4 名

- ・馬場 晴菜選手（フェンシング）

天野エンザイム株式会社に内定（2022 年 9 月 1 日付入社）

- ・オトパウリネ 恵美里選手（ビーチバレーボール）

社会医療法人宏潤会大同病院に内定

- ・谷地 宙選手（スキー）

5 月 19 日（木）に東京都で開催されたアスナビ説明会により日本航空株式会社に内定

- ・倉 菜々子選手（スポーツクライミング）

新東工業株式会社に内定

国民体育大会愛知県選手団の成績について

1 第77回国民体育大会冬季大会スケート競技会・アイスホッケー競技会

○ 大会概要

- (1) 期 日 2022年1月24日(月)から1月30日(日)まで
 (2) 会場地 栃木県日光市

2 第77回国民体育大会冬季大会スキー競技会

○ 大会概要

- (1) 期 日 2022年2月17日(木)から2月20日(日)まで
 (2) 会場地 秋田県鹿角市

3 第77回国民体育大会本大会

○ 大会概要

- (1) 期 日 2022年10月1日(土)から10月11日(火)まで
 2022年9月10日(土)から9月19日(月)まで ※会期前実施競技
 (2) 会場地 栃木県宇都宮市他

4 総合成績

※()内は茨城国体(2019年)の順位

順位	男女総合成績	女子総合成績	順位	男女総合成績	女子総合成績
1位	東京 (2)	東京 (2)	5位	大阪 (6)	大阪 (5)
2位	栃木 (18)	栃木 (26)	6位	神奈川 (5)	兵庫 (8)
3位	埼玉 (4)	愛知 (3)	7位	千葉 (7)	岐阜 (18)
4位	愛知 (3)	埼玉 (4)	8位	福岡 (11)	神奈川 (9)

【参考】

1 特別国民体育大会本大会冬季大会スケート競技会・アイスホッケー競技会

○ 大会概要

- (1) 期 日 2023年1月28日(土)から2月5日(日)まで
 (2) 会場地 青森県八戸市、南部町

2 特別国民体育大会本大会冬季大会スキー競技会

○ 大会概要

- (1) 期 日 2023年2月17日(金)から2月20日(月)まで
 (2) 会場地 岩手県八幡平市

3 特別国民体育大会本大会

○ 大会概要

- (1) 期 日 2023年10月7日(土)から10月17日(火)まで
 2023年9月16日(土)から9月24日(日)まで ※会期前実施競技
 (2) 会場地 鹿児島県鹿児島市他

障害者スポーツ事業について

1 障害者スポーツ推進事業について

東京 2020 パラリンピックの開催や、愛知・名古屋における 2026 年アジアパラ競技大会の開催検討を契機として、パラスポーツをより一層推進していくため、2020 年度に有識者等を委員とする検討会議を立ち上げ、パラスポーツの推進に向けた今後の取組について検討した。

2021 年度からは、検討会議における意見を踏まえた新たな取組を順次実施していき、愛知からパラスポーツを盛り上げ、スポーツを活かした共生社会の実現を目指している。

【2021 年度からの取組】

(1) あいち障害者スポーツ連絡協議会の開催

2020 年度の検討会議を引き継ぎ、パラスポーツの推進に向けた継続した連携体制を構築する。

○ 構成員：県、パラアスリート、スポーツ団体、経済団体、医療関係者、特別支援学校 等

○ 開催実績

	実施日	議題
第1回	7月4日(月)	パラスポーツの推進に向けた2022年度の取組について
第2回	2月20日(月)	2022年度事業の報告、2023年度の取組の説明

(2) ポータルサイトの運営

障害の有無に関わらず誰もがスポーツを楽しむことができる情報交流の場を構築する。

○ 掲載内容：大会及びイベント情報、施設及び団体情報、地域スポーツ情報 等

(3) 地域で障害の有無に関わらず誰もが参加できるスポーツプログラムの実施

総合型地域スポーツクラブにおいて、パラスポーツに関するプログラムを実施することにより、障害者が地域でスポーツ活動をする機会を提供するとともに、地域住民と障害者の交流を促進する。

○ 日程・場所・内容

実施日	実施クラブ	内容
12月17日(土)	ウィル大口スポーツクラブ(大口町)	ボッチャ フライングディスク
1月9日(月・祝)	青山スポーツクラブ(半田市)	ボッチャ
2月11日(土)	梅坪・浄水スポーツクラブ(豊田市)	ボッチャ

(4) スポーツ指導者等への障害者スポーツ勉強会・体験会の実施

地域のスポーツ指導者に対して、パラスポーツに関する勉強会や体験会を実施することにより、地域におけるパラスポーツ推進のキーパーソンを育成する。

- 対象者：スポーツ推進委員、総合型地域スポーツクラブ関係者、理学療法士 等
- 日程・場所・カリキュラム

	実施日	場所	カリキュラム
1日目	11月27日(日)	ウインクあいち	勉強会(パラスポーツの全体講義)
2日目	12月10日(土)	名古屋柳城女子大学	体験会(パラスポーツの実技体験)
3日目	1月7日(土)		勉強会(障害種別やサポートの注意点について)
4日目	1月21日(土)		実践(障害者が参加するテストマッチにおける指導、審判の実践)

【2022年度からの新たな取組】

(1) 障害者スポーツ交流イベントの開催

パラスポーツの普及や共生社会の実現に向けた障害への理解を促進するため障害のあるなしにかかわらず誰もがスポーツを通じて交流を深められるイベントを実施する。

○実施日：2023年2月25日(土)

○会場：ドルフィンズアリーナ(愛知県体育館)第1競技場

- 内容：
- ・パラスポーツ体験(パラ卓球、車いすバスケットボール、フライングディスク、ボッチャ、タグラグビー)
 - ・ステージイベント(パラアスリートによるトークショー、人気俳優のスペシャルトーク、クイズ大会など)
 - ・ブース出展等(競技用具(義肢・義足)、福祉車両の展示、アジアパラ競技大会PR、パラアスリートふれあいコーナー)
 - ・スタンプラリー等

(2) 地域や医療機関でのスポーツ体験機会の創出

障害者の誰もが気軽にスポーツを体験できるようにするため、地域や医療機関への競技用具を貸し出す。

○貸出用具：ボッチャ6セット、フライングディスク3セット(1セットあたり30枚)

○貸出先：総合型地域スポーツクラブ、リハビリテーション施設、特別支援学校

貸出状況(2022年12月末現在)

貸出先	か所数
総合型地域スポーツクラブ	3クラブ
リハビリテーション施設	1施設
特別支援学校	4校

(3) パラスポーツを支える人材の育成

(ア) あいちパラスポーツサポーターの育成

パラスポーツを支える人材のすそ野を広げるため、パラスポーツを理解し応援する「あいちパラスポーツサポーター」を育成し、認定する。

○対象者：高校生以上の一般県民（県内企業の社員、大学生、高校生等）

○内 容：パラスポーツの魅力や障害についてのセミナー、パラスポーツの体験等

実施日	場所	講師
1月21日	TKP 名古屋駅前カンファレンスセンター	日本福祉大学 三井利仁教授
2月4日	豊橋市民センター	日本福祉大学 荒賀博志非常勤講師
2月5日	邦和みなとスポーツ&カルチャー	日本福祉大学 児玉友准教授

(イ) 若手指導者の確保

パラスポーツを支える人材不足、高齢化の解消に向けて、学生等を対象に、事例発表や指導体験会を実施し、資格取得後の積極的な活動につなげる。

○対象者：県内の、日本パラスポーツ協会認定の障害者スポーツ指導員資格取得認定校で資格を取得予定の学生

○実施日：2022年12月17日（土）

○場 所：日本福祉大学

○内 容：障害者スポーツ指導者協議会の活動紹介、パラスポーツの交流試合 等

(ウ) 指導者のリ・スタート支援

パラスポーツを支える指導者の活動継続につなげるため、活動を再開しようとする障害者スポーツ指導員等を対象に、学びなおしの場としてセミナー等を実施する。

○対象者：障害者スポーツ指導員の資格取得者で活動を再開しようとする者や活動経験が浅い者。

○実施日：2023年2月18日（土）

○場 所：春日井総合体育館

○内 容：スキルアップ研修、ワークショップ 等

2 第5回世界身体障害者野球大会開催費負担金について

障害者野球の国際大会を、全国への発信力の高いバンテリンドームナゴヤで開催することにより、愛知・名古屋からパラスポーツを盛り上げるとともに、2026年アジアパラ競技大会の開催機運の醸成につなげていくため、愛知県と名古屋市が協力し、大会開催経費のうち、球場使用料の一部を負担する。

○日 程：2023年9月9日（土）、10日（日）

○場 所：バンテリンドームナゴヤ

○共 催：愛知県、名古屋市、中日新聞社

○大会名誉顧問：長嶋茂雄氏

○大会顧問：大村秀章愛知県知事、河村たかし名古屋市長

○出 場 国：日本、アメリカ、韓国、台湾、プエルトリコ

○観 客 数：延べ約2,000名

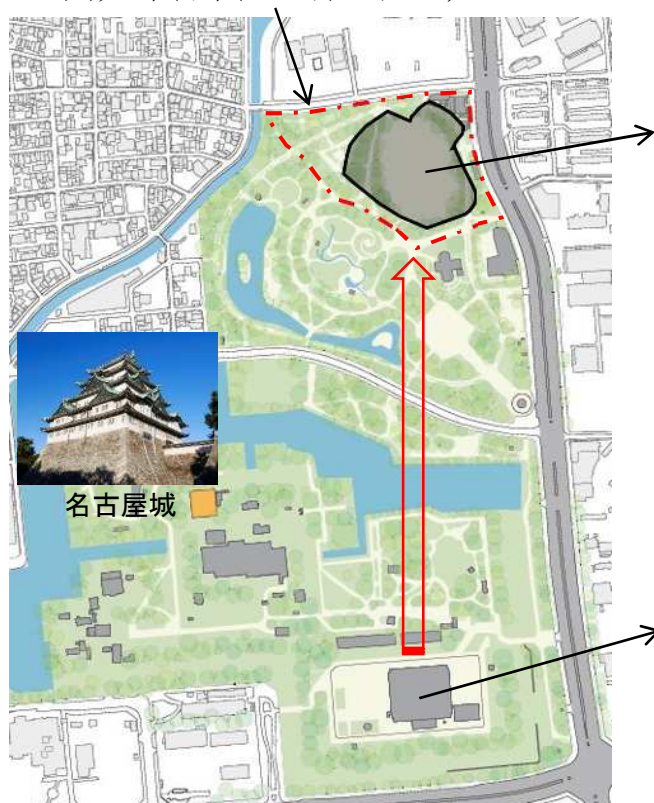
愛知県新体育館（愛知国際アリーナ）について

1 概要

現体育館は、施設の老朽化とともに、規模・機能がスポーツの国際大会を開催するための国際水準を満たしていないことから、2026年のアジア競技大会に利用できるよう、2025年夏のオープンに向けて新体育館の整備を進めている。

2 事業計画地

名城公園北園の一部 約46,000 m²



【外観】隈 研吾氏のデザインによる樹形アリーナ



©2022 Aichi International Arena
画像はイメージです。デザインなどは変更になる場合があります。
※2022年7月7日（起工式）時点

【現体育館】



3 事業内容

事業手法：PFI手法の「BTコンセッション方式」により、設計・建設から維持管理・運営を一体として民間事業者が実施

事業者名：株式会社愛知国際アリーナ

代表企業 <設計・建設時> 前田建設工業株式会社

<維持管理・運営時> 株式会社NTTドコモ

その他の Anschutz Sports Holdings (Anschutz Entertainment Group)、

出資者 三井住友ファイナンス&リース株式会社 等

事業期間：<設計・建設> 2021.6.1 から 2025.3.31 (3年10か月)

<維持管理・運営> 2025.4.1 から 2055.3.31 (30年)

契約金額：サービス購入料 19,999,100,000 円 (税込)

(参考)設計・建設費相当額 約400億円

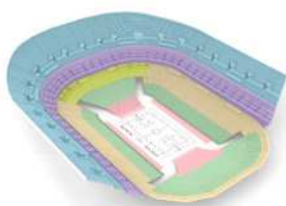
4 施設計画

(1) 建築概要

	新体育館	現体育館
建築面積	約 26,500 m ²	7,633 m ²
延床面積	約 63,000 m ²	17,240 m ²
階層・最高高さ	地上 5 階・41.0m	地上 3 階 地下 1 階・20.4m
最大収容人数	17,000 人（立見含む）	7,407 人

(2) 主な施設

- ・メインアリーナは「ハイブリッドオーバル型（オーバル型＋馬蹄型）」の観客席と 30m 以上の天井高さを確保



【イメージ図】

【座席計画例】

大相撲	11,000席
バスケットボール	15,000席
フィギュアスケート	14,100席

- ・県民のスポーツ活動や文化活動の拠点となるサブアリーナ、多目的ホール等を整備（サブアリーナと多目的ホールは一体利用が可能）

(3) 維持管理・運営

- ・最新技術を活用した維持管理システムを導入し、計画的にアップデートすることで、常に最先端のスマートアリーナとし、顧客満足度を最大化
- ・世界最先端のスマートアリーナにふさわしい最新の観戦・鑑賞体験をセンタービジョンや国内アリーナ最多相当数のモニターなどを配置して演出
- ・ICTを活用して、AR観戦やマルチアングル観戦など、非日常的な体験を提供

5 スケジュール

- 2021 年度 : 契約、設計
- 2022 年度～ : 設計、建設工事（2022 年 7 月より建設工事に着手）
- 2025 年度 : 夏オープン予定
- 2026 年度 : 第 20 回アジア競技大会(2026/愛知・名古屋)